

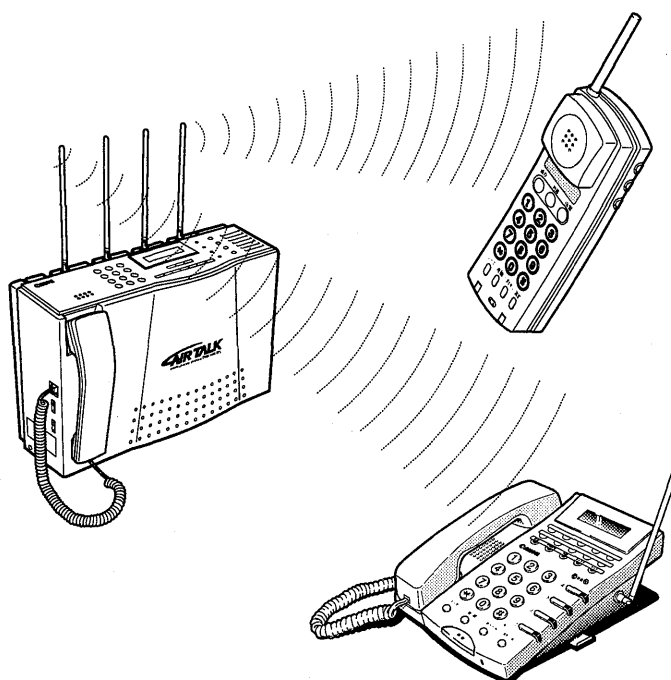
Canon

CANON DIGITALPHONE SYSTEM

DIGI 408 WL

AIR TALK

サービス・データ・シートの手引き



＜ サービス・データ・シート記入方法 入門編 ＞

このドキュメントは、お客様に応じたシステムを構成するために必要なシステムデータについて説明しています。

尚、システムデータを熟知している工事者の方は、別紙の「サービス・データ・シート (PUB No. Z-TJ-033)」を直接ご利用ください。

ZY8-2017-101

はじめに

本ドキュメントには、DIGITALPHON SYSTEM DIGI408WL サービスマニュアルからデータ設定に関する情報について抜粋した内容、及び基本機能、拡張機能ごとに必要なデータ設定について記載してあります。

また本ドキュメントは、下記の4つのパートに内容を分けて、記載しています。

- 1 設置時に必要なデータ設定
基本的な機能を利用するために最低限必要なデータ設定を記入形式でまとめてあります。(→Page4)
- 2 データ設定で利用できる機能
機能ごとに必要なデータ設定を記入形式でまとめてあります。(→Page6)
- 3 システムデータの登録
システムデータの登録方法について記載されています。(→Page25)
- 4 付 録
付録としてメニューデータ設定、個別データ設定、フレキシブルキーアサイン、外線ボタン割付、ワンタッチダイヤル登録などシステムデータ以外のデータ設定が記載されています。(→Page54)

■本マニュアルを読む前に

- 1) 工場出荷値は、設定項目ごとの表中に下線を引くか、または表の下に初期値として示します。
- 2) 設定範囲、及び設定値の詳細は、各表の下に示します。
- 3) 外線端子番号と外線番号、内線端子番号と内線番号の関係は、Page2を参照してください。

■前提条件

システムデータを設定する前に下記の実行されていることを前提とします。

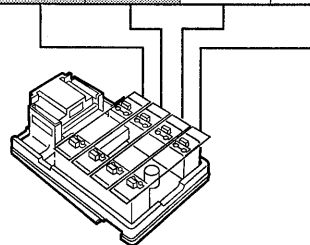
- 1) システム診断
- 2) 課金データ転送

※ 実行方法は、別紙の「サービスマニュアル」、または「工事説明書」に記載してあります。

(1) 外線端子番号と外線番号の関係

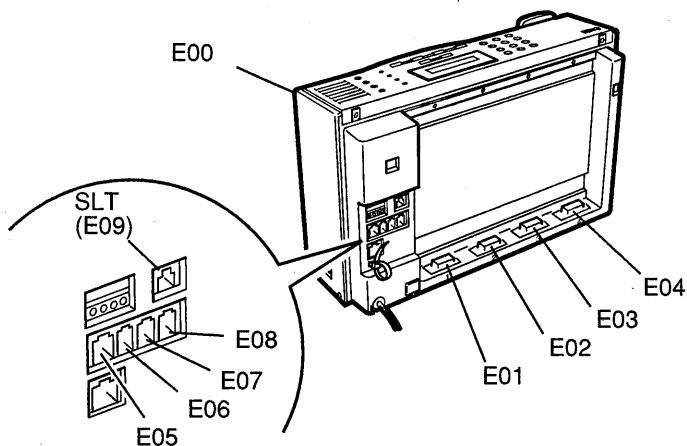
外線端子番号	外線番号	備考
C01	1	基本構成
C02	2	
C03	3	2外線増設カードが必要である。
C04	4	

ピン番号	L1	L2	L3	L4	L5	L6	L7	L8
外線端子番号	C04	C03	C02	C01				



■ : オプション

(2) 内線端子番号と内線番号の関係



内線端子番号	内線番号 (工場出荷値)	備考
E00	10	マスター電話機
E01	11	基本構成
E02	12	
E03	13	
E04	14	
E05	15	2内線増設カードが必要である。
E06	16	
E07	17	4内線増設カードが必要である。
E08	18	
E09	19	ファクスまたは一般電話機

■ : オプション

年 月 日

お客様名：

住所：

電話番号1：

電話番号2：

電話番号3：

電話番号4：

工事店名
(会社名)
(住 所)

外線数		本	
内線数	専用電話機	セット(台)	
	移動電話機	セット(台)	
	ファクス・SLT	有り・無し	商品名 ()
	ドアホン	有り・無し	商品名 ()
	拡声装置	有り・無し	商品名 ()
カード	2外線増設カード	有り・無し	
	2内線増設カード	有り・無し	
	4内線増設カード	有り・無し	
	ドアホンユニット	有り・無し	

(特記事項)

1. 設置時に必要なデータ設定

本製品の基本的な機能をご利用頂くために最低限必要なデータ設定についてまとめてあります。
 設置者の方は、(1)～(6)の内容を必ず記入し、システムデータの登録(→Page25)を行ってください。

(1) 外線に接続する回線の種別に該当する設定値に○(マル)をつけてください。

外線種別 <No.211>		外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	NTT				
PBX/CES					
ルートKDD					
その他					
空白(未実装)					

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 1.ガイセンハッシン 記入要項]

(2) 外線ごとのダイヤルモードに該当する設定値に○(マル)をつけてください。

ダイヤル方式 <No.212>		外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	パルス (20)				
トーン					
パルス (10)					

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 1.ガイセンハッシン 記入要項]

(3) 外線ごとの電話番号を市外局番から記入して下さい。(最高16桁)

電話番号 <No.227>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(初期値：空白)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 2.ガイセンチャクシン → デンワバンゴウ 記入要項]

外線種別<No.211>が全て“PBX/CES”の場合は、内線番号を記入し、設置場所の電話番号として代表番号を記入してください。

設置場所の電話番号 <No.903>	
-----------------------	--

(設定範囲：0を含む電話番号) (初期値：空白)

- (4) 内線ごとに外線発信の可否、及び自動捕捉の可否を任意に選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

外線発信可否 <No.313>	外線1 (C01)			外線2 (C02)			外線3 (C03)			外線4 (C04)		
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2
内線1 (E01)												
内線2 (E02)												
内線3 (E03)												
内線4 (E04)												
内線5 (E05)												
内線6 (E06)												
内線7 (E07)												
内線8 (E08)												
内線0 (E00)												

(設定範囲:0;発信不可,1;自動捕捉可,2;自動捕捉不可)

[0:発信不可]に設定した場合は、その外線につなぐことはできません。

[1:自動捕捉可]に設定した場合は、受話器をとることにより自動的につながります。

[2:自動捕捉不可]に設定した場合は、受話器をとったあと外線ボタンを押すことによりつながります。

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン] → [1.ナイセンハッシン] → [ガイセンハッシン] 記入要項]

- (5) 内線ごとに外線着信の可否、及び自動応答の可否を任意の組み合わせで選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

昼間外線着信 <No.322>	外線1 (C01)				外線2 (C02)				外線3 (C03)				外線4 (C04)			
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
内線1 (E01)																
内線2 (E02)																
内線3 (E03)																
内線4 (E04)																
内線5 (E05)																
内線6 (E06)																
内線7 (E07)																
内線8 (E08)																
内線0 (E00)																

(設定範囲:0;鳴動なし・自動応答不可,1;鳴動あり・自動応答可,2;鳴動なし・自動応答可,3;鳴動あり・自動応答不可)

[0:鳴動なし・自動応答不可]に設定した場合は、

その外線からの着信音は鳴動しません、また受話器をとることにより自動的に応答することもできません。

[1:鳴動あり・自動応答可]に設定した場合は、

その外線からの着信音を鳴動します、また受話器をとることにより自動的に応答することもできます。

[2:鳴動なし・自動応答可]に設定した場合は、その外線からの着信音は鳴動しません、但し、受話器をとることにより自動的に応答ができます。

[3:鳴動あり・自動応答不可]に設定した場合は、

その外線からの着信音を鳴動します、但し、受話器をとることにより自動的に応答することはできません。

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン] → [2.ナイセンチャクシン] → [ヒルマノチャクシン] 記入要項]

以上で、必要最低限のデータ設定は終了です。

拡張機能の設定をする場合は、次頁へ、これで終了の場合は、「サービス・データ・シート」に以上のデータを転記してください。

2. データ設定で利用できる機能

本製品の基本的な機能に加えシステムデータの登録でご利用頂ける機能をまとめてあります。
お客様のシステム構成に応じて“はい”にレ点を記入された場合は、右のページにお進みください。

いいえ はい

- Q01 ファクス、または一般電話機を接続しますか ➡ P8
- Q02 ドアホン、または拡声装置を接続しますか ➡ P10
- Q03 NCCと契約し、通常の外線発信の操作で、自動的にNCC番号を付加した
発信をしますか ➡ P11

発信規制

- Q04 特定の市内局番、または市外局番へのダイヤルを規制しますか ➡ P13
- Q05 外線発信可能な内線端子と外線端子をグループ分けしますか ➡ P14
- Q06 着信専用の外線をもうけますか ➡ P14
- Q07 内線ごとに発信可能な地域を昼間用と夜間用で設定しますか ➡ P15

着信規制

- Q08 外線着信可能な内線と外線をグループ分けしますか ➡ P16
- Q09 内線の電話機をグループ分けしますか ➡ P16

着信方式

- Q10 外線からの着信を特定の内線に集中着信しますか ➡ P17
- Q11 外線からの着信を公衆網側の電話機に自動転送しますか ➡ P17
- Q12 外線からの着信を特定の内線にDIL着信しますか ➡ P17
- Q13 一定時間内に応答がない外線着信は、特定の内線にスライド着信しますか ➡ P18
- Q14 外線からの着信を夜間用で着信しますか ➡ P18

着信方式切替

- Q15 着信方式を週間自動着信モード切替で切替えますか ➡ P19
- Q16 着信方式を夜間/休日着信モード切替で切替えますか ➡ P20

外線にかける・通話する

- Q17 ダイヤル方式がパルスの外線でダイヤルしたときのダイヤル送出音を
電話機側で聞かせますか ➡ P20
- Q18 通話中に他の外線またはドアホンに着信があるとき話中着信音を鳴動しますか ➡ P21
- Q19 外線通話中の通話時間、及び通話料金表示を規制しますか ➡ P21
- Q20 外線通話中のダイヤルは全てトーン信号で公衆網側に送出しますか ➡ P21

内線にかける

- Q21 内線代表番号で呼び出す内線をグループ分けしますか ➡ P22
- Q22 グループ一斉音声呼出する内線をグループ分けしますか ➡ P22

電話機を受ける

- Q23 外線ごとに音色の異なる着信音で鳴動しますか ➡ P23
- Q24 内線着信音の音色を変更しますか ➡ P23

話中・応答がない

Q25 オートリピートダイヤルによる繰り返し回数を変更しますか ➡ P23

保留・転送する

Q26 保留してから1回目の警告音が鳴るまでの間隔を変更しますか ➡ P24

Q27 ダイヤル転送（内線→内線）をできないようにしますか ➡ P24

Q28 手動転送電話（内線→外線）をできないようにしますか、または通話中の
外線に着信してきた外線に手動転送しますか ➡ P24

SLT

無線電話機の他に一般の家庭用として使用されるファクス、一般電話機、多機能電話機、モデムなどの2線対応の端末(以後、SLTという)も収容できます。SLTを使用するために必要な(6)～(13)の項目を記入してください。

- (6) SLTに接続する電話機種別に該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

電話機種別 <No.511>	ファクス	SLT	空白(未実装)

NOTE

- 電話機種別がSLTの場合は、ファクス転送が利用できなくなります。

- (7) SLTに接続した電話機のダイヤルモードに該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

ダイヤル方式 <No.512>	トーン	パルス

NOTE

- 設定値がパルスのSLTには、電話機本体のダイヤルモードがパルス(10)、またはパルス(20)の電話機を接続できます。

- (8) SLTの初期の発信状態を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

オフフック発信 <No.514>	ガイセン	ナイセン	ホットライン

→(9)へ

「ガイセン」に設定した場合は、受話器をとるだけで外線につながります。フッキングすると内線につながります。

「ナイセン」に設定した場合は、受話器をとるだけで内線につながります。フッキングすると外線につながります。

「ホットライン」に設定した場合は、内線番号をダイヤルしなくても受話器をとるだけであらかじめ決められた内線呼び出すことができます。

- (9) ホットラインで呼出す内線の端子番号を記入してください

ホットライン先内線 <No.515>	
-----------------------	--

(設定範囲：01～08) (初期値：01)

- (10) 外線発信の可否、及び自動捕捉の可否を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

外線発信可否 <No.516>	外線1 (C01)			外線2 (C02)			外線3 (C03)			外線4 (C04)		
	0	1	2	0	1	2	0	1	2	0	1	2

(設定範囲：0；発信不可、1；自動捕捉可、2；自動捕捉不可)

「0：発信不可」に設定した場合は、その外線につなぐことはできません。

「1：自動捕捉可」に設定した場合は、受話器をとることにより自動的につながります。

「2：自動捕捉不可」に設定した場合は、受話器をとったあと外線捕捉特番(81～84)を押すことによりつながります。

→つづき

- (11) 外線着信の可否、及び自動応答の可否を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

昼間外線着信 <No.522>	外線1 (C01)				外線2 (C02)				外線3 (C03)				外線4 (C04)			
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3

(設定範囲：0；鳴動なし・自動応答不可、1；鳴動あり・自動応答可、2；鳴動なし・自動応答可、3；鳴動あり・自動応答不可)

「0：鳴動なし・自動応答不可」に設定した場合は、

その外線からの着信音は鳴動しません、また受話器をとることにより自動的に応答することもできません。

「1：鳴動あり・自動応答可」に設定した場合は、

その外線からの着信音を鳴動します、また受話器をとることにより自動的に応答することもできます。

「2：鳴動なし・自動応答可」に設定した場合は、

その外線からの着信音は鳴動しません、但し、受話器をとることにより自動的に応答ができます。

「3：鳴動あり・自動応答不可」に設定した場合は、

その外線からの着信音を鳴動します、但し、受話器をとることにより自動的に応答することはできません。

- (12) 内線着信の鳴動パターンを選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

内線着信鳴動パターン <No.525>	鳴動パターン1	鳴動パターン2

NOTE

- 音色は、電話機本体の音源に従います。

- (13) 通話中のフッキング操作による動作を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

フッキング送出時動作 <No.533>	システム保留	フッキング送出	ダイヤル選択

「システム保留」に設定した場合は、外線を保留し、内線発信状態となります。フッキング信号は送出できません。

「フッキング送出」に設定した場合は、外線にフッキング信号を送出します。システム保留はできません。

「ダイヤル選択」に設定した場合は、保留かフッキング信号送出かをダイヤルボタンでそのつど選び、どちらでも使えるようになります。

(外線と通話中) → (フッキング) → 0で保留

(外線と通話中) → (フッキング) → 1でフッキング信号送出

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 5.SLT 記入要項]

ドアホン

ドアホンからの呼出しに電話機で応答したり電話機からドアホンを出して通話することができます。

- (14) ドアホン着信音の鳴動の有無を内線ごとに選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

		E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E00	E09
ドアホン着信 <No.325>	メイドウ アリ	—	—	—	—						
	メイドウ ナシ					—	—	—	—	—	—

[PUB. Z-TJ-033 (3/3)] [3.ナイセン] → [2.ナイセンチャクシン] → [ドアホンチャクシン] 記入要項

ドアホン着信<No.524>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3)] [5.SLT] → [2.SLTチャクシン] → [SLTドアホンチャクシン] 記入要項

- (15) ドアホン着信による鳴動開始から応答できる時間を変更する場合は、1秒～60秒の範囲で記入してください。

ドアホン応答有効時間 <No.402>	秒
------------------------	---

(設定範囲：1～60) (初期値：20秒)

- (16) ドアホン呼出の予告音の有無を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

予告音<No.401>	[プー]	[ピンポン]	ナシ
	—		

[PUB. Z-TJ-033 (1/3)] [4.ドアホン] 記入要項

NOTE

- ドアホン呼出での予告音は、[プー] による予告音の有無を選択するために使用します。[ピンポン] 音の選択は放送機能で有効となります。また、ドアホン着信時はここでの設定に関係なく常に [ピンポン] 音が鳴動します。

拡声装置

電話機からの音声を拡声装置を使って放送できます。また、放送で呼出した人との内線通話ができます。

- (17) 構内放送の予告音の音色、及び鳴動の有無を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

予告音<No.401>	[プー]	[ピンポン]	ナシ
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

- (18) 着信音を拡声装置から鳴動させる外線を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

高音量スピーカ <No.226>		外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	ナシ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
アリ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 2.ガイセンチャクシン → スピーカチャクシン 記入要項]

簡易LCR

NCCと契約すれば、通常の外線発信操作で、自動的にNCC番号を付加して電話機をかけられます。

- (19) 使用する電話会社のNCC番号を記入してください。

NCC特番<No.811>	NCC番号1	NCC番号2	NCC番号3
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

(設定範囲：0088、0077、0070 etc) (初期値：全て0000)

- (20) 使用する電話会社の契約の有無を該当する外線のところに○（マル）をつけてください。
NCC契約1～3は、NCC番号1～3に対応しています。

NCC契約 <No.821>			外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	NCC 契約1	0：ナシ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1：アリ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NCC 契約2	0：ナシ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
		1：アリ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	NCC 契約3	0：ナシ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
1：アリ		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

(初期値：全て契約なし)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 8.NCC 記入要項]

(21) NCC番号とこれに付加する0を除いた市外局番を記入してください。

	市外局番	NCC番号		市外局番	NCC番号
			26		
			27		
			28		
			29		
			30		
			31		
			32		
			33		
			34		
			35		
			36		
NCC対地番号 <No.831>			37		
			38		
			39		
			40		
			41		
			42		
			43		
			44		
			45		
			46		
			47		
			48		
			49		
			50		

(設定範囲：左に0を除く5桁以内の市外局番、右にNCC番号1~3)

NOTE

- 簡易LCRは、課金データ転送済のシステム上でのみ動作します。
- 外線側に市販のLCRアダプタを接続してある場合は、本設定のNCC契約<No.821>を全て“ナシ”にすること。

ダイヤル発信規制

特定の番号に発信できないようにあらかじめ設定できます。

(22) 発信規制する市外局番を記入してください。

市外発信規制 <No.621>	市外発信規制番号1	
	市外発信規制番号2	
	市外発信規制番号3	
	市外発信規制番号4	

(設定範囲：0を除く5桁の市外局番) (初期値：全て空白)

(23) 発信規制する市内局番を記入してください。

市内発信規制 <No.631>	市内発信規制番号1	
	市内発信規制番号2	
	市内発信規制番号3	
	市内発信規制番号5	
	市内発信規制番号6	
	市内発信規制番号7	
	市内発信規制番号8	
	市内発信規制番号9	
	市内発信規制番号10	

(設定範囲：0を除く5桁の市内局番) (初期値：全て空白)

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 6.ハッシンキセイ 記入要項]

グループ別発信規制

発信できる外線を4つのグループに分けることができます。内線からの発信は、同じグループの外線からのみ発信可能となります。

- (24) 外線ごとにグループ番号を記入してください。グループ番号が0の外線は、共通グループとなり、全ての内線から発信できます。

発信グループ <No.215>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(<No.215>設定範囲：0、1、2、3、4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3)] [2.ガイセン] → [1.ガイセンハッシン] → [ハッシングループ] 記入要項]

- (25) 内線ごとにグループ番号を記入してください。

発信グループ<No.312>	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E00	E09

(<No.312、513>設定範囲：1、2、3、4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3)] [3.ナイセン] → [1.ナイセンハッシン] → [ハッシングループ] 記入要項]

発信グループ<No.513>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3)] [5.SLT] → [1.SLTハッシン] → [SLTハッシングループ] 記入要項]

NOTE

- 内線は、グループ番号が同じかグループ番号が0の外線による発信を可能とします。

着信専用外線

- (26) 外線ごとに発信の可否を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

発信可否 <No.216>		外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	カノウ				
フカ					

[PUB. Z-TJ-033 (2/3)] [2.ガイセン] → [1.ガイセンハッシン] → [ハッシンカヒ] 記入要項]

地域別発信規制（夜間発信）

電話機ごとに発信可能地域を昼間用または夜間用に切り替えることができます。

(27) 発信可能地域設定表から内線ごとにクラスを選択し、昼と夜に記入してください。

発信可能地域 <No.315>	E01		E02		E03		E04		E05		E06		E07		E08		E00		E09	
	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜	昼	夜

(設定範囲：下表のサービスクラスから1つの内線に昼と夜の2種類選択) (初期値：全てクラス00)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3)] 3.ナイセン → 1.ナイセンハッシン → ハッシンカノウチイキ 記入要項

発信可能地域<No.518>

[PUB. Z-TJ-032 (1/3)] 5.SLT → 1.SLTハッシン → SLTハッシンカノウチイキ 記入要項

(28) 発信可能地域設定表の特定市外通話の対象となる市外局番を記入してください。

特定市外局番 <No.611>	特定市外局番1	特定市外局番11
	特定市外局番2	特定市外局番12
	特定市外局番3	特定市外局番13
	特定市外局番4	特定市外局番14
	特定市外局番5	特定市外局番15
	特定市外局番6	特定市外局番16
	特定市外局番7	特定市外局番17
	特定市外局番8	特定市外局番18
	特定市外局番9	特定市外局番19
	特定市外局番10	特定市外局番20

(設定範囲：0を除く2桁の市外局番) (初期値：全て空白)

[PUB. Z-TJ-033 (1/3)] 6.ハッシンキセイ → 1.トクテイシガイ 記入要項

発信可能地域設定表

規制項目 クラス	システム共通 短縮ダイヤル	内線通話	PBX/CES 内線通話	市内通話	特定 市外通話	市外通話	国際電話
00	○	○	○	○	○	○	○
10	○	○	○	○	○	○	×
11	×	○	○	○	○	○	×
20	○	○	○	○	○	×	×
21	×	○	○	○	○	×	×
30	○	○	○	○	×	×	×
31	×	○	○	○	×	×	×
40	○	○	○	×	×	×	×
41	×	○	○	×	×	×	×
50	○	○	×	×	×	×	×
51	×	○	×	×	×	×	×

○：発信可能 ×：発信規制

グループ別着信規制

外線の着信先を4つのグループに分けることができます。ある外線に着信があると、その外線が所属するグループの電話機だけが応答できます。このグループのことを内線グループといいます。

(29) 外線ごとにグループ番号を記入してください。グループ番号が0の外線は、共通グループとなり、全ての電話機から応答できます。

着信グループ <No.221>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(<No.221>設定範囲：0、1、2、3、4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン] → [2.ガイセンチャクシン] → [チャクシングループ] 記入要項]

(30) 内線ごとにグループ番号を記入してください。

内線グループ<No.321>	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E00	E09

(<No.321、521>設定範囲：1、2、3、4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン] → [2.ナイセンチャクシン] → [ナイセングループ] 記入要項]

内線グループ<No.521>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 5.SLT] → [2.SLTチャクシン] → [SLTナイセングループ] 記入要項]

NOTE

- 内線は、グループ番号が同じかグループ番号が0の外線による着信を可能とします。

内線グループ

内線を4つのグループに分けることができます。代理応答、内線ステップコール、口頭転送はこのグループ内で有効です。

(31) 内線ごとにグループ番号を記入してください。

内線グループ<No.321>	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E00	E09

(<No.321、521>設定範囲：1、2、3、4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン] → [2.ナイセンチャクシン] → [ナイセングループ] 記入要項]

内線グループ<No.521>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 5.SLT] → [2.SLTチャクシン] → [SLTナイセングループ] 記入要項]

NOTE

- 「グループ着信規制」に関係なくグループ分けする場合は、着信グループ<No.221>のグループ番号を全て“0”に変更すること。

集中着信

外線からの着信をすべて特定の電話機で集中して受けるようにします。夜間・休日に外線電話を守衛所だけで受けたいときなどに便利です。

(32) 外線ごとに集中して着信させる内線端子番号を記入してください。

集中着信先内線 <No.223>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(設定範囲：00～09の内線端子番号) (初期値：全て空白)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) **2.ガイセン** → **2.ガイセンチャクシン** → **シュウチュウナイセン** 記入要項]

自動転送電話

外線からの着信を、あらかじめ設定した公衆網側の電話機に自動的に転送します。

(33) 着信方式の戻し忘れ防止のためにマスター電話機に特別着信音を鳴動させることの有無を選択してください。該当する設定値のところに○ (マル) をつけてください。

特別着信音 <No.135>	アリ	<input type="checkbox"/>
	ナシ	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) **1.システム** → **3.システムホリユウ** → **トクベツチャクシンオン** 記入要項]

(34) 外線ごとに転送先の電話番号が登録されている短縮番号を記入してください。

転送先短縮番号 <No.224>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(設定範囲：00～89の短縮番号) (初期値：全て00)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) **2.ガイセン** → **2.ガイセンチャクシン** → **テンソウサキナイセン** 記入要項]

NOTE

- 転送先短縮番号に記入した短縮番号に電話番号を登録してください。

DIL着信

外線からの着信をすべて特定の電話機で集中して受けるようにします。他の電話機から応答することはできません。

(35) 指定した電話機が20秒たっても応答しないときは、DIL着信から通常着信になるようにすることの有無を選択してください。該当する設定値のところに○ (マル) をつけてください。

DIL解除 <No.122>	ナシ	<input type="checkbox"/>
	アリ	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) **1.システム** → **1.システムハッシン** → **DILカイジョ** 記入要項]

(36) 外線ごとに集中して着信させる内線端子番号を記入してください。

DIL着信先内線 <No.225>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(設定範囲：00～09の内線端子番号) (初期値：全て空白)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) **2.ガイセン** → **2.ガイセンチャクシン** → **DILナイセン** 記入要項]

スライド着信

外線からの着信に一定時間（最長1分）応答がないとき、自動的に指定した内線へ着信させます。

(37) スライドするまでの時間を0～60秒の範囲で記入してください。

スライド時間 <No.123>	秒
--------------------	---

(設定範囲：00～60秒) (初期値：15秒)

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 1.システムハッシン → スライドジカン 記入要項]

(38) 外線ごとに集中して着信させる内線の端子番号を記入してください。

集中着信先内線 <No.223>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)

(設定範囲：00～09の内線端子番号) (初期値：全て空白)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 2.ガイセンチャクシン → シュウチュウナイセン 記入要項]

夜間着信

夜間などにかかってきた外線の着信を、どの電話機で鳴らすか設定できます。

(39) 内線ごとに外線着信の可否、及び自動応答の可否を任意の組み合わせで選択してください。該当する設定値のところに○ (マル) をつけてください。

夜間外線着信 <No.323>	外線1 (C01)				外線2 (C02)				外線3 (C03)				外線4 (C04)			
	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3	0	1	2	3
E01		—				—				—				—		
E02		—				—				—				—		
E03		—				—				—				—		
E04		—				—				—				—		
E05		—				—				—				—		
E06		—				—				—				—		
E07		—				—				—				—		
E08		—				—				—				—		
E00		—				—				—				—		
E09	—				—				—				—			

(設定範囲：0；鳴動なし・自動応答不可、1；鳴動あり・自動応答可、2；鳴動なし・自動応答可、3；鳴動あり・自動応答不可)

夜間外線着信<No.523>

「0：鳴動なし・自動応答不可」に設定した場合は、その外線からの着信音は鳴動しません、また受話器をとることにより自動的に応答することもできません。

「1：鳴動あり・自動応答可」に設定した場合は、その外線からの着信音を鳴動します、また受話器をとることにより自動的に応答することもできます。

「2：鳴動なし・自動応答可」に設定した場合は、その外線からの着信音は鳴動しません、但し、受話器をとることにより自動的に応答ができます。

「3：鳴動あり・自動応答不可」に設定した場合は、その外線からの着信音を鳴動します、但し、受話器をとることにより自動的に応答することはできません。

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン → 2.ナイセンチャクシン → ヨルノチャクシン 記入要項]

週間自動着信モード切替

自動的に全外線の着信方式を切り替えます。あらかじめそれぞれの外線に曜日と時間帯ごとの設定をしておくことにより、全外線の着信方式を自動的に切り替えることができます。

(40) 着信方式を切り替える時刻を24時間制で昇順に記入してください。

着信モード切替時刻 <No.711>	切替時刻1	切替時刻2	切替時刻3	切替時刻4	切替時刻5

(初期値：全て00時00分)

(41) 外線ごとに着信方式の組み合わせを最高5つまで記入してください。

モード別着信方式 <No.731>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
モード1				
モード2				
モード3				
モード4				
モード5				

(設定範囲：0：通常着信、1：集中着信、2：自動転送電話、3：DIL着信、4：DID着信、5：スライド着信、6：夜間着信)

(初期値：全て0：通常着信)

(42) 曜日と時刻間ごとに使用する着信モードの番号を記入してください。

週間着信モード <No.721>	切替時刻1 ～切替時刻2	切替時刻2 ～切替時刻3	切替時刻3 ～切替時刻4	切替時刻4 ～切替時刻5	切替時刻5 ～切替時刻1
SUN					
MON					
TUE					
WED					
THU					
FRI					
SAT					

(設定範囲：1：モード1、2：モード2、3：モード3、4：モード4、5：モード5) (初期値：全て1：モード1)

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 7.チャクシンモード 記入要項]

夜間／休日着信モード切替

週間自動着信モードで設定されている着信モードを一時的に切り替えることができます。例えば、平日でも一時的に休日モードにしたいときなどに使用します。

(43) 外線ごとに着信方式の組み合わせを最高5つまで記入してください。

モード別着信方式 <No.731>	外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
モード1				
モード2				
モード3				
モード4				
モード5				

(設定範囲：0：通常着信、1：集中着信、2：自動転送電話、3：DIL着信、4：DID着信、5：スライド着信、6：夜間着信)
(初期値：全て0：通常着信)

NOTE

- 週間自動着信モード切替 (→Page19) を使用する場合は、ここでの記入は必要ありません。

DP送出色

ダイヤル方式がパルスの外線でダイヤルしたときのダイヤル送出色を電話機側で聞かせることができます。

(44) パルス信号送出色を聞かせることの有無を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

DP送出色 <No.144>	ナシ	アリ

NOTE

- ダイヤル方式がトーンの送出色を電話機側で聞かせることはできません。但し、外線通話中のトーン信号送出色を除く。

話中着信通知

通話中に他の外線またはドアホンから着信があると、話中着信音「プー」を鳴らすことができます。

- (45) 内線ごとに話中着信の有無を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

話中着信音 <No.332>		E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08
	ナシ								
アリ									

[PUB. Z-TJ-033 (3/3)] [3.ナイセン] → [3.ナイセンヒョウジ] 記入要項

NOTE

- システム内で同時に話中、着信音が鳴動する内線は最高3内線までです。

通話時間／料金表示

課金センターから課金情報をダウン・ロード（課金データ転送）すれば、外線通話中に通話時間と通話料金が表示できます。通話時間と通話料金を表示せずにダイヤルモニタのままにすることもできます。

- (46) 専用電話機、マスター電話機ごとに通話時間／料金表示の有無を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

通話時間／ 料金表示 <No.331>		E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E00
	ナシ									
アリ										

注意

- 課金センターから課金情報をダウン・ロード（課金データ転送）すると自動的に設定値は、アリに変更されます。

トーン信号自動切替

パルス回線でも銀行の残高照会、航空券予約、株式売買などのトーン（プッシュホン）信号による各種サービスが受けられます。通話中に*ボタンを押してその後のダイヤルをトーン信号で送出することもできますが、*ボタンに関係なく通話中のダイヤルは、すべてトーン信号で送出させることもできます。

- (47) *ボタンに関係なく通話中のダイヤルは、すべてトーン信号で送出させることの有無を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

トーン信号自動切替 <No.141>	ナシ	アリ

[PUB. Z-TJ-033 (1/3)] [1.システム] → [4.システムダイヤル] 記入要項

NOTE

- 通話時間／料金表示が“ナシ”の電話機（携帯電話機を含む）は、通話中に送出したダイヤルを1桁目から表示します。

内線番号

内線代表で1*と押すと内線番号が10番台の空いている内線を呼び出します。2*と押せば内線番号が20番台の空いている内線を呼び出します。例えば、人事課は10番台（10～19）、総務課は20番台（20～29）というように内線番号を分けておけば、そのグループ内の空いている電話機にかけられます。

(48) 内線ごとに10～59の範囲で内線番号を記入してください。

内線番号 <No.326>	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08	E09

(設定範囲：10～59) (初期値：内線1から順番に11)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン → 2.ナイセンチャクシン → ナイセンバンゴウ 記入要項]

内線番号<No.526>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 5.SLT → 2.SLTチャクシン → SLTナイセングループ 記入要項]

NOTE

- 複数の内線に同じ内線番号を登録することはできません。

グループ一斉呼出

相手がどこにいるかわからないときやお知らせがあるときなど、全専用電話機またはあらかじめグループ設定されていればグループごとに専用電話機のスピーカから音声で呼び出すことができます。専用電話機は、4つのグループに分けることができます。

(49) 内線を1～4のグループ番号でグループ分けしてください。

一斉呼出グループ <No.324>	E01	E02	E03	E04	E05	E06	E07	E08

(設定範囲：1～4) (初期値：全てグループ1)

[PUB. Z-TJ-033 (3/3) 3.ナイセン → 2.ナイセンチャクシン → イッセイグループ 記入要項]

NOTE

- 専用電話機以外の設定は、無効となります。

外線着信音

外線別に着信音の音色を変えることができます。音色は3種類のうちから選択できます。

(50) 外線ごとに着信音を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

着信音 <No.222>		外線1 (C01)	外線2 (C02)	外線3 (C03)	外線4 (C04)
	着信音1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	着信音2	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	着信音3	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (2/3) 2.ガイセン → 2.ガイセンチャクシン → チャクシンオン 記入要項]

NOTE

- マスター電話機、SLTはここでの設定に関係なく固定した音色で鳴動します。

内線着信音

内線着信音の音色を変えることができます。音色は3種類のうちから選択できます。

(51) 内線着信音を選択してください。該当する設定値のところに○（マル）をつけてください。

内線着信音 <No.124>	着信音1	<input type="checkbox"/>
	着信音2	<input type="checkbox"/>
	着信音3	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 1.システムチャクシン → ナイセンチャクシンオン 記入要項]

NOTE

- マスター電話機、SLTはここでの設定に関係なく固定した音色で鳴動します。但し、SLTの鳴動パターン<No.525>は2種類の中から選択できます。(→Page9)

オートリピートダイヤル

発信先が話中のときに電話機が自動的に繰り返しダイヤルしてくれます。

(52) リダイヤルする回数を10~90の範囲で記入してください。(10回単位)

オートリピート回数 <No.113>	回
-----------------------	---

(設定範囲：10~90) (初期値：10回)

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 1.システムハッシン → オートリピートカイスウ 記入要項]

長時間保留警報

外線との通話を保留にして一定時間経過すると、スピーカから警告音が1分間隔で4秒間鳴り、外線を長時間待たせることを防ぎます。警告音は保留してから1分後/2分後/3分後に鳴るように設定できます。また警告音を鳴らさないようにも設定できます。

(53) 保留してから1回目の警告音になるまでの時間を設定してください。

保留警報 <No.131>	ナシ	1min	2min	3min
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 3.システムホリユウ → ホリユウケイホウ 記入要項]

NOTE

- 設定に関係なく2回目以降の警告音は、1分間隔で鳴動します。但し、設定値が“ナシ”の場合を除く。

ダイヤル転送

離れている内線に転送したいときは、保留のあと転送先へダイヤルして転送します。あらかじめ設定すればダイヤル転送をできなくしたりもできます。

(54) ダイヤル転送の有無を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

内線ダイヤル転送 <No.132>	アリ	ナシ
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 1.システムホリユウ → ナイセンダイヤルテンソウ 記入要項]

外線手動転送

通話中の外線を保留して他の外線に転送します。あらかじめ設定すれば手動転送をできなくしたり、また外線を保留してポケベルで呼び出した相手に転送できるようにもなります。

(55) 外線手動転送の有無、及び転送外線を選択してください。該当する設定値のところに○(マル)をつけてください。

外線手動転送 <No.133>	ナシ	ハッシン	ハツチャクシン
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

[PUB. Z-TJ-033 (1/3) 1.システム → 3.システムホリユウ → ガイセンダイヤルテンソウ 記入要項]

「サービス・データ・シート」に以上のデータを転記してください。

3. システムデータの登録

3-1 システムデータメニュー

3-1-1 登録方法

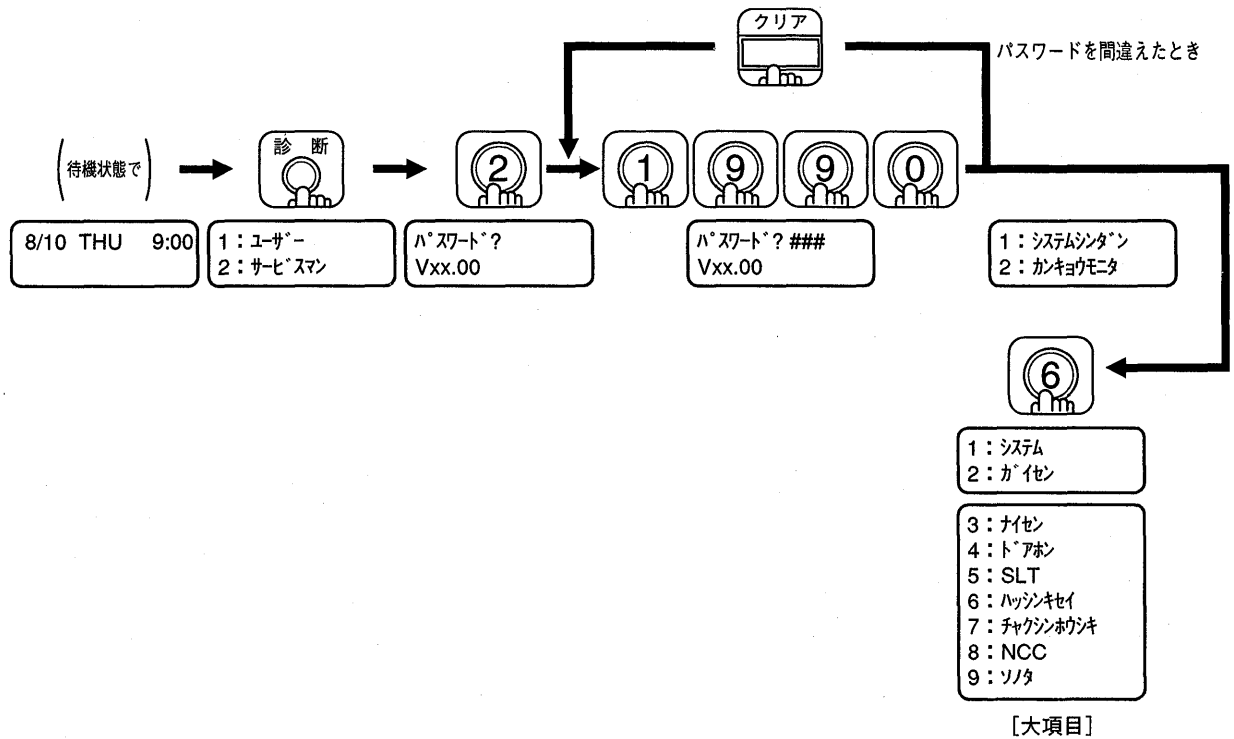
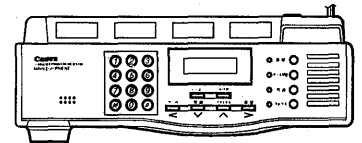
システムデータは、データ設定で利用できる機能に必要な設定内容の変更を行なうことにより、多様な電話交換環境を構築する場合に用いる。

本操作は、マスター電話機の操作パネル上で行い下記のいずれかの操作によりシステムデータメニューとすることができる。

操作1：イニシャルスタートからシステムデータを選択する

操作2：サービスマンモードからシステムデータを選択する

ここでは、サービスマンモードによる操作方法を下記に示す。



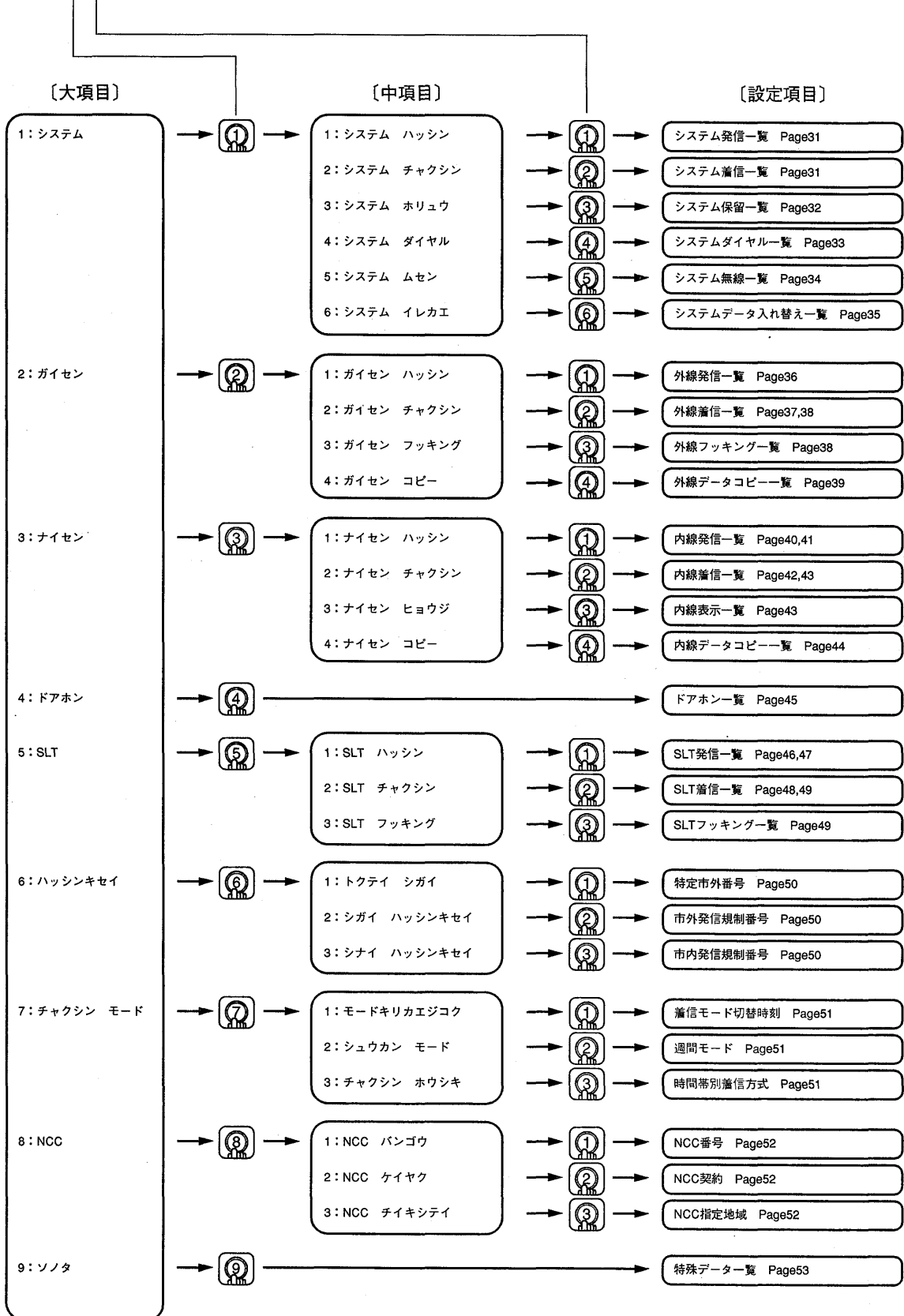
NOTE

- 前段の表示に戻す時は、 ボタンを押下する。
- 設定値は、, , , ボタンを押下した時点で更新する。
- システムデータを終了する場合は、 ボタンを押下する。
- イニシャルスタートの詳細は、別紙の「工事説明書」を参照すること。

3-1-2 階層構造と設定項目の見方

システムデータは、3層の階層（ディレクトリ）構造であり、基本的に大項目、中項目、設定項目に分けられる。

No. XXX



プログラムNo. サービス機能で必要な設定内容を簡易に示すための番号。ディスプレイには、表示されない。

システムデータの中項目を示す。

名称 設定内容の名称

ディスプレイ (LCD) 表示 工場出荷値を示す。特に、外線、または内線データの場合は、端子番号01の値を示す。

設定範囲 設定範囲以外のデータを登録した場合は、更新されず変更前の設定値が再度表示される。

備考 設定値の概略と注意事項を示す。

システム発信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷時)	設定範囲	備考
No.111 外線補足ルール	ガイセンホケルル オイバン	オイバン ワカバン (*ボタンで変更)	オイバン： 自動補足可能で外線端子の1番大きい空き外線から順に補足する。 ワカバン： 自動補足可能で外線端子の1番小さい空き外線から順に補足する。
No.112 ポーズ時間	ポーズシガ Qsec	0~3(1秒単位)	PBX/CES発信特番送出後のポーズ時間、及びフレキシブルポーズ時間の間隔を設定する。 NOTE フレキシブルポーズとは、ワンタッチダイヤル時の
No.113			

※プログラムNo.の百の位と十の位は、設定項目が含まれる上位層の選択番号に対応する。

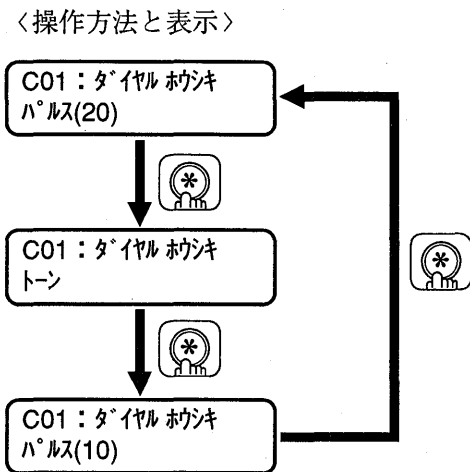
NOTE

- 設定内容欄の網点は、調節及び対策に係るデータ設定であることを示します。

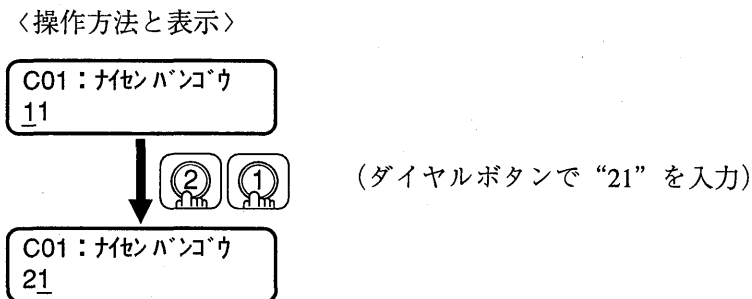
3-1-3 設定値の変更方法

システムデータの設定変更には、以下の2通りがある。

- (1) データ選択による変更 [例：外線のダイヤル方式〈No.212〉を変更する場合]



- (2) カーソルが表示される変更 [例：内線番号〈No.326〉を変更する場合]

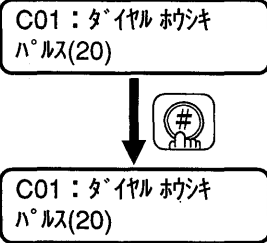


NOTE

- 設定値は、、、、 ボタンを押下した時点で更新する。
- 「カーソルが表示される変更」で設定範囲外の値を入力した場合は、、、、 ボタンを押下した時点で変更前の値に戻る。
- 電話番号〈No.227〉、特定市外局番〈No.611〉、市外発信規制番号〈No.621〉、市内発信規制番号〈No.631〉、NCC対地番号〈No.831〉、課金センターの電話番号〈No.902〉、設置場所の電話番号〈No.903〉で入力を間違えた場合は、クリアボタンを押下し、再度入力をやり直す。

外内線の設定は、以下の方法により外内線端子番号を更新する。
 [例：外線2のダイヤル方式〈No.212〉をトーンに変更する場合]

〈操作方法と表示〉

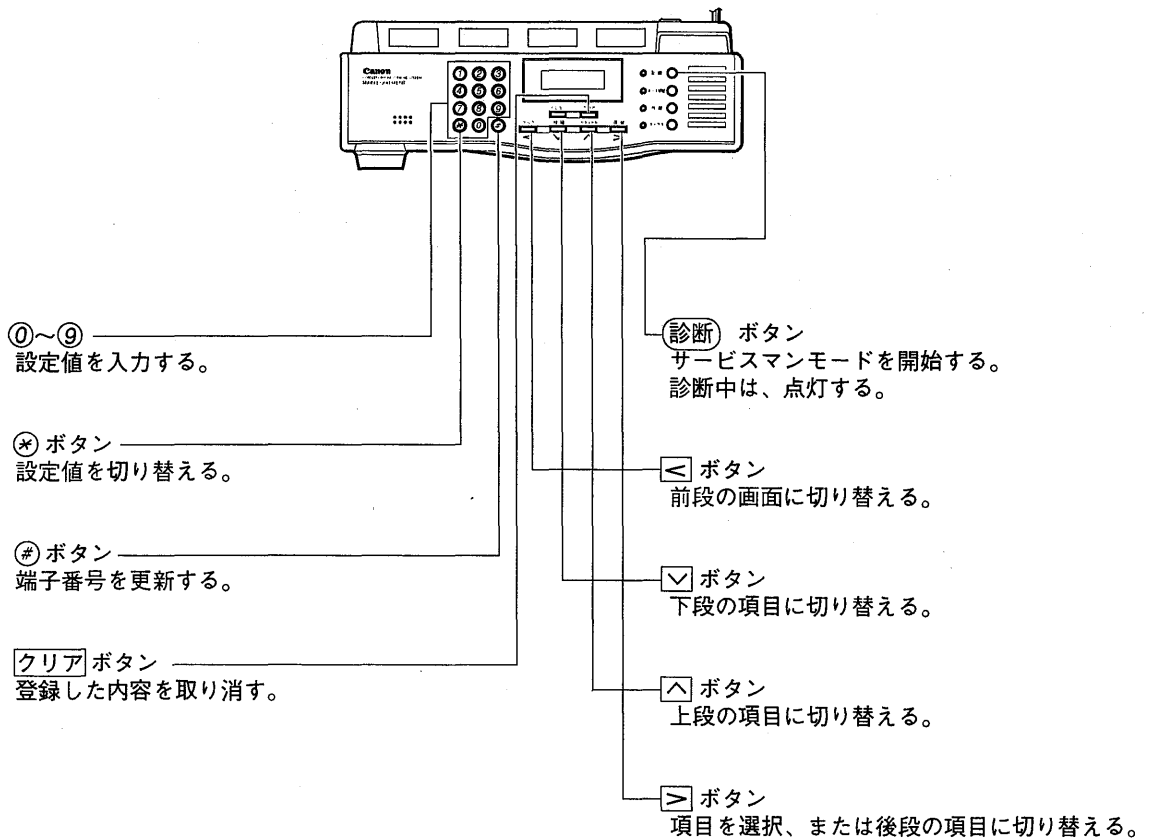


以降は、(1)と同じ

NOTE

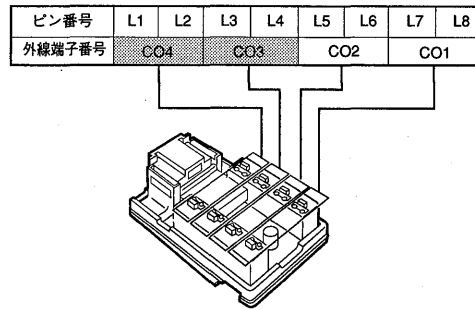
- 外線は、**#** ボタンを押下する度に外線2 (C02) →外線3 (C03) →外線4 (C04) →外線1 (C01) を繰り返し表示する。
- 内線は、**#** ボタンを押下する度に内線2 (E02) →内線3 (E03) →……→内線8 (E08) →内線0 (E00) →内線1 (E01) を繰り返し表示する。
- 内線0 (E00) はマスター電話機を示す。

3-1-4 各部の名称と機能



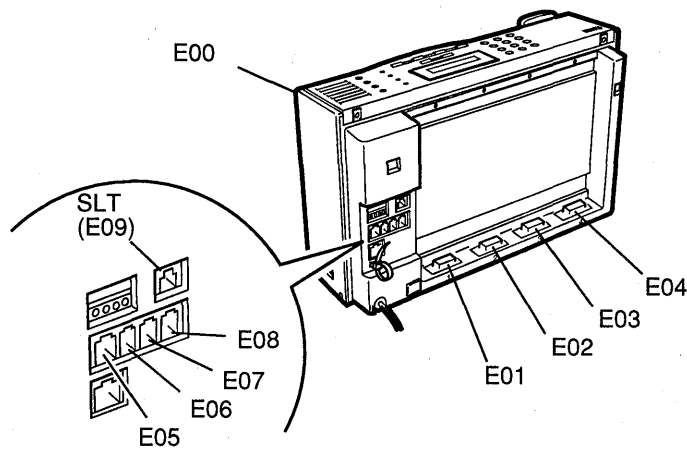
3-1-5 外線端子番号

外線端子番号	外線番号	備考
C01	1	基本構成
C02	2	
C03	3	2外線増設カードが必要である。
C04	4	



■ : オプション

3-1-6 内線端子番号と内線番号の関係



内線端子番号	内線番号 (工場出荷値)	備考
E00	10	マスター電話機
E01	11	基本構成
E02	12	
E03	13	
E04	14	
E05	15	2内線増設カードが必要である。
E06	16	
E07	17	4内線増設カードが必要である。
E08	18	
E09	19	ファクスまたは一般電話機

■ : オプション

3-2 システムデータ一覧

3-2-1 システムデータ

システム発信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.111 外線捕捉ルール	ガイセンホウルール オイバン	オイバン ワカバン (*) ボタンで変更)	任意外線捕捉で捕捉する外線端子の優先順位を設定する。 オイバン: 自動捕捉可能で外線端子番号の1番大きい空き外線から順に捕捉する。 ワカバン: 自動捕捉可能で外線端子番号の1番小さい空き外線から順に捕捉する。
No.112 ポーズ時間	ポーズジカン 0sec	0~3(1秒単位)	PBX/CES発信特番送出後のポーズ時間、及びフレキシブルポーズ時間の間隔を設定する。 NOTE フレキシブルポーズとは、ワンタッチダイヤル、短縮ダイヤルの任意の位置に外線ボタンの押下により登録するポーズをいう。
No.113 オートリピート回数	オートリピート カイブ 10かい	0~9(10回単位)	オートリピートダイヤルによる外線発信の繰り返し回数を設定する。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の項目を表示する
 ~ 、 設定値入力

システム着信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.121 途中放棄検出時間	チャクシンホウキジカン 3sec	3sec 4.5sec (*) ボタンで変更)	外線からの着信信号が設定時間以上途切れた場合に途中放棄とみなし着信鳴動を停止する。
No.122 DIL解除	DIL カイブ ナシ	ナシ アリ (*) ボタンで変更)	DIL着信中の内線が20秒以内に応答しない場合は、DIL着信から通常着信に切り替えることの有無を設定する。
No.123 スライド時間	スライドジカン 15sec	00~60(1秒単位)	通常着信中の内線が設定時間内に応答しない場合は、集中着信先内線(No.223)に着信をスライドする。
No.124 内線着信音	ガイセン チャクシンオン チャクシンオン1	チャクシンオン1 チャクシンオン2 チャクシンオン3 (*) ボタンで変更)	内線端子01~08の内線着信音を一括設定する。 NOTE マスター電話機は固定である。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の項目を表示する
 ~ 、 設定値入力

システム保留一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.131 保留警報	ホリュウ ケイホク 1min	1min 2min 3min ナシ (*) ボタンで変更)	外線通話を設定時間以上保留した場合は、保留警報を4秒間鳴動する。但し、2回目以降の警報は設定時間に関係なく1分間隔で鳴動する。
No.132 内線ダイヤル転送	ナイセン ダイアル テンノウ アリ	アリ ナシ (*) ボタンで変更)	ダイヤル転送機能の利用可否を設定する。設定値が“ナシ”の場合は、転送せずに保留状態のままとする。
No.133 外線手動転送	ガイセン テンノウ ハッシン	ハッシン ハッチャクシン ナシ (*) ボタンで変更)	外線手動転送の可否、及び転送外線を設定する。 ナシ： 転送先の外線と通話後、受話器を置くことによる転送を禁止する。 ハッシン： 通話中の外線を保留後、他の外線により発信しての転送を可能とする。 ハッチャクシン： 通話中の外線を保留後、他の外線により発信しての転送、及び着信中の外線に対する転送を可能とする。
No.134 転送電話用レベル値	テンノウツウワ レベル 3dB	3dB 6dB 9dB 0dB (*) ボタンで変更)	手動転送電話及び、自動転送電話による主装置を介した双方向の通話音量を設定値に従い増減幅する。
No.135 特別着信音	トクベツチャクシンオン アリ	アリ ナシ (*) ボタンで変更)	着信方式が自動転送電話の場合、着信から転送先応答までの間、マスター電話機に特別着信音を鳴動させることの有無を設定する。 NOTE 鳴動中はマスター電話機からの応答が可能である。但し、SLTが使用中は鳴動しない。 特別着信音は自動転送電話の着信モード戻し忘れ防止のために使用する。

〔キー操作〕



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

システムダイヤル一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.141 トーン信号自動切替	トーンシフト切り替え ナシ	ナシ アリ (*)ボタンで変更	応答リバーシ(極性反転)検出、または最終桁のダイヤル送出から約10秒後のダイヤルをトーン(PB)信号で送出することの有無を設定する。 NOTE 本設定が“ナシ”の場合でもSLTを除き外線通話中に(*)ボタンを押下すると、その後のダイヤルをトーン信号で送出できる。
No.142 トーン送出時間	トーンソフツツジカン 080msec	06~30 (10msec単位)	トーン信号の検出基準が通常仕様と異なる場合は、本設定により送出時間を変更する。
No.143 トーン休止時間	トーンキュウシジカン 080msec	08~30 (10msec単位)	トーン信号の検出基準が通常仕様と異なる場合は、本設定により休止時間を変更する。
No.144 DP送出音	DPソフツツオン ナシ	ナシ アリ (*)ボタンで変更	ダイヤル方式が“パルス”の外線で発信した場合、パルス信号の送出音を聞かせることの有無を選択する。

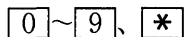
【キー操作】



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

システム無線一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.151 使用制御チャ ネル	ムセシキヨ チャネル 46/89チャネル	46/89チャンネル 46チャンネル 89チャンネル (※ボタンで変更)	制御チャンネル(46chまたは89ch)の使用方法を設定する。 46/89チャンネル: 内線端子番号の奇数番を46チャンネル、偶数番を89チャンネルで使用する。 46チャンネル: 全ての無線電話機が制御チャンネルを46chで使用する。 89チャンネル: 全ての無線電話機が制御チャンネルを89chで使用する。 NOTE 本設定を変更した場合は、無線電話機個別の制御チャンネル変更操作も同時に行なうこと。
No.152 通話状態チェ ック周期	ツウワ ショウタイ チェック 000min	000~240 (1min単位)	接続ユニットと無線電話機の通話状態を設定間隔で確認する。 設置環境が悪く無線電話機側で通話を終了したにもかかわらず接続ユニットが切断信号を受信できずに無線チャンネルを占有することを防止するために使用する。 NOTE 000に設定すると、本機能は動作しない。
No.153 通話チャンネル 選択	ツウワ チャネル センタク ホウシキ1	ホウシキ1 ホウシキ2 (※ボタンで変更)	通話チャンネルを複数の無線電話機が同時に使用することにより発生する相互干渉の少ないチャンネルグループを選択する。 電波環境の影響により通話チャンネルエラーが多発する場合は、“方式2”に変更すること。
No.154 切断時間	セツタン ジカン 05sec	01~59 (1秒単位)	無線通話終了後、次の無線接続時間を短縮するため無線電話機は設定時間のあいだ無線を保持し続ける。
No.155 着信切断時間	チャクシン セツタンジカン 30sec	01~59 (1秒単位)	外線着信時、応答した電話機を除き他の無線電話機は設定時間のあいだ無線を保持し続ける。このことにより着信応答後の保留LED表示を迅速に変化させることができる。
No.156 エラー表示	エラー ヒョウジ ナシ	ナシ アリ (※ボタンで変更)	無線回線接続時に通話チャンネルに空きがないために接続できない場合、外線LEDを橙色に点滅することの有無を設定する。 本設定は、通話チャンネルビジーによる無線障害が発生したことをユーザに知らせるための方法として使用する。

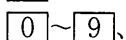
(キー操作)



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

システム入れ替え一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.161 外線別データ 入れ替え	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ガイセンデータ 入れ加 _ , </div>	01~04	レイアウト変更に伴う局線の入れ替えが発生した場合は、入れ替えする2つの外線端子番号を登録することにより外線データの設定内容を全て入れ替える。 NOTE 入れ替えは、更新した時点で実行する。
No.162 内線別データ 入れ替え	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;"> ナイセンデータ 入れ加 _ , </div>	01~08	レイアウト変更に伴う内線の入れ替えが発生した場合は、入れ替えする内線端子番号を登録することにより内線データの設定内容を全て入れ替える。但し、電話機種別〈No.311〉が“未実装”の電話機との入れ替えはできない。 NOTE 入れ替えは、更新した時点で実行する。

〔キー操作〕



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

3-2-2 外線データ

外線発信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.211 外線種別	C01: ガイセン シュハツ NTT	NTT PBX/CES ルートKDD ソノタ (*) ボタンで変更)	外線端子01~04に接続した局線の種別を外線端子別に設定する。 但し、局線を接続していない外線端子は、クリアボタンの押下により空白(未実装)とすること。
No.212 ダイヤル方式	C01: ダイヤル ホウシ パルス(20)	パルス(20) トーン パルス(10) (*) ボタンで変更)	外線端子01~04に接続した局線のダイヤル方式を外線端子別に設定する。 NOTE ダイヤル方式は通信事業者との契約に従う。
No.213 応答リバース	C01: オウトウ リバース アリ	アリ ナシ (*) ボタンで変更)	局線側による応答信号(極性反転)の有無を外線端子01~04別に設定する。 NOTE 極性反転機能のない局線(交換機)に“アリ”と設定した場合は、自動転送電話動作時に発信先相手が応答したことを検出できずに回線接続できない状態となる。
No.214 切断リバース	C01: セツタン リバース アリ	アリ ナシ (*) ボタンで変更)	局線側による切断信号(極性反転)の有無を外線端子01~04別に設定する。 NOTE 極性反転機能のない局線(交換機)に“アリ”と設定した場合、またはその反対の設定を行なった場合は、自動転送電話動作時に外線の切断が検出できないため最高30分の間、回線を切断できない状態となる。
No.215 発信グループ	C01: ハッシン グループ 1	0~4	外線端子01~04別に設定した発信グループ番号と同じグループ番号を持つ内線<No.312,513>からの発信を可能とする。 但し、設定値が“0”の外線端子は、共通グループとなり任意のグループ番号を持つ内線から発信可能となる。
No.216 発信可否	C01: ハッシン カ カウ	カノウ フカ (*) ボタンで変更)	本設定を“フカ”とした外線は、他の設定に関係なく着信専用外線となる。

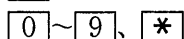
{キー操作}



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力



外線端子番号を更新する

※当表のLCD表示は例として外線端子番号C01の工場出荷値を示す。

外線着信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.221 着信グループ	C01:チャクシグループ 1	0~4	外線端子01~04別に設定した内線グループ番号と同じグループ番号を持つ内線<No.321、521>への着信鳴動または応答を可能とする。 但し、設定値が“0”の外線端子は、共通グループとなり任意のグループ番号を持つ内線への着信鳴動または応答が可能となる。
No.222 外線着信音	C01:チャクシオン チャクシオン1	チャクシオン1 チャクシオン2 チャクシオン3 (*)ボタンで変更)	外線端子01~04別に外線着信の音色を設定する。 NOTE マスター電話機、及びSLTの外線着信音は固定である。
No.223 集中着信先内線	C01:シュウチュウ ナイセン -	00~09 [クリア]ボタンで設定解除	外線端子01~04別に着信方式が集中着信、スライド着信の着信先内線を内線端子番号の中から選択する。 マスター電話機は00、SLTは09を選択する。
No.224 転送先短縮番号	C01:テンソウサキ タンシュク 00	00~89 [クリア]ボタンで設定解除	外線端子01~04別に着信方式が自動転送電話の転送先電話番号をあらかじめ登録してあるシステム共通短縮番号の中から選択する。 NOTE 転送先電話番号は、発信規制の対象から外れる。
No.225 DIL着信先内線	C01: DILナイセン -	00~09 [クリア]ボタンで設定解除	外線端子01~04別に着信方式がDIL着信の着信先内線を内線端子番号の中から選択する。 マスター電話機は00、SLTは09を設定する。
No.226 高音量スピーカ	C01:スピカ チャクシ ナ	ナシ アリ (*)ボタンで変更)	外線端子01~04別に外線着信高音量スピーカの有無を選択する。 本設定を“アリ”とした外線端子の着信音は、構内放送用の拡声器から鳴動する。 但し、複数の外線着信音を鳴動有りにした場合は、先に着信した外線の着信音のみ鳴動する。また、鳴動中は構内放送機能は動作しない。
No.227 電話番号	C01:テンワハンゴウ -	[クリア]ボタンで設定解除	外線端子01~04に接続した局線の電話番号を市外局番から設定する。(最高16桁) NOTE PBX/CES内線として本製品を接続した場合は、PBX/CESの内線番号を設定し、設置場所の電話番号<No.903>に直通的電話番号を市外局番から設定すること。

[キー操作]

前段の表示に戻す

上下の項目を表示する

~ 、 設定値入力

外線端子番号を更新する

外線フッキング一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.231 フッキング送出時間	C01:フッキング ジカ 0800msec	01~20 (100ミリ秒単位)	外線端子01~04別にフックボタンの押下、またはSLTによるフッキング操作で局線側に送出するフッキング信号の送出時間を設定する。 NOTE フッキング信号は、主にキャッチホンに対する応答に使用する。
No.232 切断時間	C01:セツタン ジカ 1.5sec	1.5sec 2.5sec (*)ボタンで変更)	外線端子01~04別に外線発信または発信通話中のフラッシュボタン押下による外線解放時間を設定する。 着信通話中の外線解放時間は、4.5秒である。 切断時間の設定は、接続した局線(交換機)の切断信号検出時間に従う。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の項目を表示する
 ~ 、 設定値入力 外線端子番号を更新する

※当表のLCD表示は例として外線端子番号C01の工場出荷値を示す。

外線データコピー一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.241 外線データコピー	がけん コピー チュウシ	チュウシ コピー (*) ボタンで変更)	外線端子01の外線データを他の端子番号C02~03に一括設定する。 一括設定する外線データを下記に示す。 応答リバース<No.213> 切断リバース<No.214> 発信可否<No.216> 着信音<No.222> 集中着信先内線<No.223> 転送先短縮番号<No.224> DIL着信先内線<No.225> 高音量スピーカ<No.226> フッキング送出時間<No.231> 切断時間<No.232> NOTE データコピーは、更新された時点で実行し、データコピー終了後、本設定は自動的に“チュウシ”に変更される。

- [キー操作] < 前段の表示に戻す
 * 設定値入力

3-2-3 内線データ

内線発信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.311 電話機種別	E01: デンキ シュベツ	マスター ヒョウジュン イドウ ユウセンヒョウジュン ダミー ヒョウジュン(エラー) ヒョウジュン(IDナシ)	自動設定 ヒョウジュン(エラー)、ヒョウジュン(IDナシ)表示の接続ユニットは交換すること。 また、ダミー表示は、動作保証しないBタイプ以外の有線電話機が接続されていることを示す。 NOTE SLTは、No.511に従う。
No.312 発信グループ	E01: ハッシン グループ 1	1~4	内線端子01~08,00別に設定した発信グループ番号と同じグループ番号、または共通グループ番号“0”の外線<No.215>を捕捉した発信が可能となる。 NOTE SLTは、No.513に従う。
No.313 外線発信可否	E01: ガイセン ハッシン 1111	0:発信不可 1:自動捕捉可 2:自動捕捉不可	内線端子01~08,00別に外線発信、及び自動捕捉の可否を外線端子別に設定する。 左から外線端子01~04に対応する。 自動捕捉とは、オフフック発信等で優先順位に従い自動的に任意の空き外線を捕捉し、外線発信状態とすることを言う。 NOTE SLTは、No.516に従う。
No.314 外線捕捉優先順位	E01: ユウセン ジュンイ 1234	1:NTT 2:PBX/CES 3:ルートKDD 4:その他	内線端子01~08,00別に自動捕捉の際、優先的に捕捉する外線種別<No.211>を左から順に設定する。 NOTE SLTは、No.517に従う。
No.315 発信可能地域	E01: ハッシン カウ チイ 00, 00	備考欄参照	内線端子01~08,00別に昼間と夜間の発信可能地域を設定する。 [XY、XY]:左が昼間、右が夜間 X 0:規制無し 1:全市外発信可能 2:市内と特定市外発信可能 3:市内発信可能 4:PBX/CES内線のみ発信可能 5:内線のみ発信可能 Y 0:システム共通短縮による発信可能 1:システム共通短縮による発信不可 NOTE SLTはNo.518に従う。

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.316 外線通話時受 話音量	E01: ガイェン ジュワ 0dB	0dB 3dB 6dB (*) ボタンで変更)	内線端子01~08,00別に外線通話の受話レ ベルを変更する。
No.317 アッテネータ の使用	E01: アッテネータノシヨウ ジドウ(B→C)	ジドウ(B←→C) シヨウ スル シヨウ シナイ ジドウ(B→C) (*) ボタンで変更)	アッテネータ(減衰器)の利用条件を内線端 子01~08別に設定する。 アッテネータを使用すると他の無線電話機 に対する電波の干渉を抑えることができ るが、到達距離は短くなる。 通常は「ジドウ(B→C)」でよいが、アッテネ ータ切替時の信号雑音が気になる場合は、「シヨ ウスル」または「シヨウシナイ」に変更すること。 また、無線電話機の収容台数が2~3台の場 合は、「シヨウシナイ」に設定すると通話可 能距離を延ばすことができる。但し、変更時 は十分に注意すること。 NOTE マスター電話機(E00)に対する設定は無効 となる。
No.318 ミュート処理	E01: ミュート シヨリ ジドウ	ジドウ スル シナイ (*) ボタンで変更)	通話中に接続ユニット、または無線電話機が 電波を受信できない状態となった場合に、過 剰な雑音を防止するため音声信号の受信を制 限することの有無を設定する。 ジドウ: 専用電話機は、ミュート機能が動 作し、移動電話機は、動作しない。 スル : 電話機種別に関係なくミュート機 能が動作する。 シナイ: 電話機種別に関係なくミュート機 能が動作しない。 NOTE マスター電話機(E00)に対する設定は無効 となる。

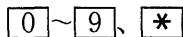
[キー操作]



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力



外線端子番号を更新する

※当表のLCD表示は例として内線端子番号E01の工場出荷値を示す。

内線着信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.321 内線グループ	E01: ナイセン グループ 1	1~4	内線端子01~08、00別に設定した内線グループ番号と同じ着信グループ番号、または共通グループ番号“0”の外線(No.221)からの着信を可能とする。 また、本設定は、口頭転送、代理応答、内線ステップコール機能の有効グループとなる。 NOTE SLTは、No.521に従う。
No.322 昼間外線着信	E01: ヒルマ ノ チャクシ 1111 E01~08 : 全て1111 E00 : 全て0000	0: 鳴動なし、自動応答不可 1: 鳴動あり、自動応答可 2: 鳴動なし、自動応答可 3: 鳴動あり、自動応答不可	内線端子01~08、00別に通常着信による鳴動、及び自動応答の可否を外線端子01~04別に設定する。 但し、マスター電話機(E00)は設定範囲の0または1のみ設定可能である。 左から順に外線端子C01~04に対応する。 NOTE SLTは、No.522に従う。
No.323 夜間外線着信	E01: ヨル ノ チャクシ 1111 E01~E08 : 全て1111 E00 : 全て0000	0: 鳴動なし、自動応答不可 1: 鳴動あり、自動応答可 2: 鳴動なし、自動応答可 3: 鳴動あり、自動応答不可	内線端子01~08、00別に夜間着信による鳴動、及び自動応答の可否を外線端子01~04別に設定する。 但し、マスター電話機(E00)は設定範囲の0または1のみ設定可能である。 左から順に外線端子01~04に対応する。 NOTE SLTは、No.523に従う。
No.324 一斉呼出グループ	E01: イッセイ グループ 1	1~4	内線端子01~08別に一斉呼出グループ番号を設定する。 但し、携帯電話機、マスター電話機に対する設定は無効となる。
No.325 ドアホン着信	E01: ドアホン チャクシ メイトウ アリ E01~E04 : アリ E05~E00 : ナシ	メイトウ アリ メイトウ ナシ (*)ボタンで変更)	内線端子01~08、00別にドアホン着信鳴動の有無を設定する。 但し、本設定に関係なく任意の内線から応答可能であり、着信音は“ピーポー”固定である。 NOTE SLTは、No.524に従う。
No.326 内線番号	E01: ナイセン バンゴウ 11 E01~E08 : 11~18 E00 : 10	10~59	内線端子01~08、00別に内線番号を設定する。 工場出荷値は、マスター電話機(E00)が10、その他は端子番号順に11から自動設定される。 NOTE 同じ内線番号を複数の内線端子に設定することはできない。 SLTは、No.526に従う。

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.327 着信鳴動開始	E01:メイトウカシ トウキスル	ドウキ スル ドウキ シナイ (※ ボタンで変更)	外線着信時に、着信音を無線電話機で同期して鳴動することの有無を設定する。 鳴動開始時期が遅いと感じる場合は、設定値を「同期しない」に変更すること。
No.328 鳴動前オフフック	E01:メイトウマエオフフック オウトウ	オウトウ ハッシン (※ ボタンで変更)	自分の電話機が着信に対して鳴動していない時点でも、システム内で着信動作中であり、自動応答可能な着信である場合は、オフフックで着信に应答する。 但し、設定値が「ハッシン」の場合は、上記のオフフックで発信を優先する。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の項目を表示する
 ~ , 設定値入力 外線端子番号を更新する

※当表のLCD表示は例として内線端子番号E01の工場出荷値を示す。

内線表示一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.331 通話時間/料金表示	E01:ジカノリョウキン ヒョウジナシ	ヒョウジナシ ヒョウジアリ (※ ボタンで変更)	内線端子01~08,00別に外線通話中の通話時間、及び料金表示の有無を設定する。 但し、移動電話機に対する設定は無効となる。 NOTE 課金データ転送済の場合は、自動的に“ヒョウジアリ”に変更される。
No.332 話中着信音	E01:ワチュウチャクシンオン ナシ	ナシ アリ (※ ボタンで変更)	内線端子01~08別に話中着信音の有無を設定する。 本設定を“アリ”とした電話機は、通話中の他の外線着信及びドアホン着信を話中着信音で知らせることができる。 但し、マスター電話機(E00)に対する設定は無効となる。 NOTE 3者会議通話中、及び3台以上の電話機に対する話中着信音は鳴動しない。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の項目を表示する
 設定値入力 外線端子番号を更新する

※当表のLCD表示は例として内線端子番号E01の工場出荷値を示す。

内線データコピー一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.341 内線データコ ピー	ナ化シ コピ チュウシ	チュウシ コピー (※ボタンで変更)	内線端子01の内線データを他の内線端子02 ~08に一括設定する。 一括設定する内線データを下記に示す。 外線発信可否<No.313> 外線捕捉優先順位<No.314> 発信可能地域<No.315> 昼間外線着信<No.322> 夜間外線着信<No.323> ドアホン着信<No.325> 通話時間/料金表示<No.331> 話中着信音<No.332> NOTE データコピーは更新された時点で実行し、 データコピー終了後、本設定は自動的に “チュウシ”に変更される。

- [キー操作] < 前段の表示に戻す
 * 設定値入力

3-2-4 ドアホンデータ

ドアホン一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.401 予告音	ドアホン ヨコホン [プー]	[プー] [ピンポン] ナシ (※ボタンで変更)	ドアホン呼出、または構内放送の開始を知らせる予告音の有無、及び音色を設定する。 音色の選択は、構内放送のみ有効であり、ドアホン呼出は“ピンポン”と設定しても“プー”と鳴動する。
No.402 ドアホン応答有効時間	ドアホン オトウジカ 20sec	01~60 (1sec単位)	ドアホン着信の予告音鳴動から応答可能な時間間隔を設定する。 NOTE ドアホンボタンは、設定時間のあいだ点滅表示する。

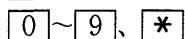
[キー操作]



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

3-2-5 SLTデータ

SLT発信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.511 電話機種別	SLT デンキ シェパツ ファクス	ファクス SLT (*) ボタンで変更)	SLTに接続した電話機の種別を設定する。 但し、電話機を接続していない場合は、クリアボタンの押下により空白(未実装)とすること。
No.512 ダイヤル方式	SLT ダイヤル 脉冲 トーン	トーン パルス (*) ボタンで変更)	SLTに接続した電話機のダイヤル方式を任意に設定する。 但し、停電対応電話として使用する場合は、外線端子番号01のダイヤル方式<No.212>に合わせること。 また、SLT本体のダイヤルモードスイッチは、本設定に従うこと。 NOTE トーン:PB パルス:DP10、DP20
No.513 発信グループ	SLT ハッシン グループ 1	1~4	本設定と同じグループ番号、または共通グループ番号“0”の外線<No.215>を捕捉した発信が可能となる。 NOTE 内線端子01~08、00は、No.312に従う。
No.514 オフフック発信	SLT オフフック ハッシン ナイセン	ナイセン ガイセン ホットライン (*) ボタンで変更)	電話機の手話器を上げた場合の発信初期値を設定する。 “ホットライン”に設定した場合は、手話器を上げることにより指定内線<No.515>に自動発信する。 NOTE 内線端子01~08は、個別データ設定(Page54)に従う。 マスター電話機(E00)のオフフック発信は、“ナイセン”固定である。

[キー操作]



前段の表示に戻す



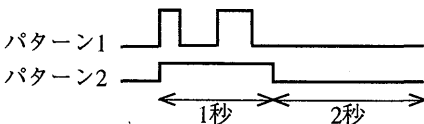
上下の項目を表示する



設定値入力

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.515 ホットライン 先内線	SLT ホットライン ナイセン 01	01~08	SLTに接続した電話機によるホットライン 先内線の内線端子番号を設定する。 NOTE 内線端子01~08は、個別データ設定 (Page54)に従う。
No.516 外線発信可否	SLT ガイセン ハッシン 1111	0:発信不可 1:自動捕捉可 2:自動捕捉不可	SLTに接続した電話機の外線発信、及び自 動捕捉の可否を外線端子01~04別に設定 する。 左から外線端子01~04に対応する。 自動捕捉とは、オフフック発信等で優先順 位に従って自動的に使用する外線端子を 選択し、発信状態とすることを言う。 NOTE 内線端子01~08,00は、No.313に従う。
No.517 外線捕捉優先 順位	SLT エクセン ジュンイ 1234	1:NTT 2:PBX/CES 3:ルートKDD 4:その他	自動捕捉の際、SLTが優先的に捕捉する外 線種別<No.211>を左から順に設定する。 NOTE 内線端子01~08,00は、No.314に従う。
No.518 発信可能地域	SLT ハッシン カウチキ 00,00	備考欄参照	SLTに接続した電話機の昼間と夜間の発信 可能地域を設定する。 [XY、XY]:左が昼間、右が夜間 X 0:規制無し 1:全市外発信可能 2:市内と特定市外発信可能 3:市内発信可能 4:PBX/CES内線のみ発信可能 5:内線のみ発信可能 Y 0:システム共通短縮による発信可能 1:システム共通短縮による発信不可

SLT着信一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.521 内線グループ	SLT ナイセン グループ 1	1~4	本設定と同じ着信グループ番号または共通グループ番号“0”の外線<No.221>からの着信を可能とする。 また、本設定は、口頭転送、代理応答、内線ステップコール機能の有効グループとなる。 NOTE 内線端子01~08、00は、No.312に従う。
No.522 昼間外線着信	SLT ヒルマノ チャクシ 0000	0:鳴動なし、自動応答不可 1:鳴動あり、自動応答可 2:鳴動なし、自動応答可 3:鳴動あり、自動応答不可	着信方式が通常着信時の着信鳴動、及び自動応答の可否を外線端子01~04別に設定する。左から外線端子01~04に対応する。 NOTE 内線端子01~08、00は、No.322に従う。
No.523 夜間外線着信	SLT ヨルノ チャクシ 0000	0:鳴動なし、自動応答不可 1:鳴動あり、自動応答可 2:鳴動なし、自動応答可 3:鳴動あり、自動応答不可	着信方式が夜間着信時の着信鳴動、及び自動応答の可否を外線端子01~04別に設定する。左から外線端子01~04に対応する。 NOTE 内線端子01~08、00は、No.323に従う。
No.524 ドアホン着信	SLT ドアホン チャクシ ナシ	ナシ アリ (*) ボタンで変更)	ドアホン着信音の鳴動の有無を設定する。但し、本設定に関係なく応答特番により応答は可能である。また、着信音は外線着信の鳴動パターンに従う。 NOTE 内線端子01~08、00は、No.325に従う。
No.525 着信鳴動パターン	SLT メイトウ パターン パターン1	パターン1 パターン2 (*) ボタンで変更)	SLTの内線着信鳴動パターンを設定する。  NOTE 内線端子01~08の内線着信音は、No.124に従う。
No.526 内線番号	SLT ナイセン バンゴウ 19	10~59	内線番号を設定する。 工場出荷値は“19”である。 他の内線番号<No.326>と同じ番号は登録できない。 NOTE 内線端子01~08、00の内線番号は、No.326に従う。

[キー操作]



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する

0~9、*

設定値入力

SLTフッキング一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備 考
No.531 フッキング検出時間(最大)	SLT フッキング Max 0900msec	01～15 (100msec単位)	SLTに接続した電話機によるフッキング操作が設定時間以上の場合、切断信号とみなし通話を切断する。
No.532 フッキング検出時間(最小)	SLT フッキング Min 200msec	01～15 (100msec単位)	SLTに接続した電話機によるフッキング操作が設定時間以下の場合は無視する。
No.533 フッキング検出時動作	SLT フッキング ドウカ システム ホリユウ	システムホリユウ フッキングソウシュツ ダイヤルセンタク (*)ボタンで変更	SLTに接続した電話機のフッキング動作を選択する。 システム保留 : 通話を保留する。 フッキング送出: フッキング信号を通信回線に送出する。 ダイヤル選択 : フッキングのあと10秒以内に“0”を押下するとシステム保留、“1”を押下するとフッキング信号を送出する。

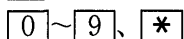
[キー操作]



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する



設定値入力

3-2-6 発信規制データ

特定市外番号

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.611 特定市外局番 (1~20)	トケイ ヲイ 1 _	備考欄参照	0を除く2桁以内の市外局番を最高20件まで設定する。 本設定は、 地域別発信規制 で発信可能な特定市外通話となる。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 設定値入力

市外発信規制番号

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.621 市外発信規制 番号局番 (1~4)	シイ ハジキセイ 1 _	備考欄参照	0を除く5桁以内の市外局番を最高4件まで設定する。 NOTE 例えば市外局番が“0996”の市外局番を規制する場合は“996”を設定すればよい。 登録した規制番号は、 地域別発信規制 に関係なく規制の対象となる。 但し、着信方式が 自動転送電話 の場合、転送先に指定された電話番号は発信規制の対象から外れる。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 設定値入力

市内発信規制番号

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.631 市内発信規制 番号局番 (1~10)	シイ ハジキセイ 1 _	備考欄参照	先頭から5桁以内の市内局番を最高10件まで設定する。 NOTE 例えば市外局番が“3757”の市内局番を規制する場合は“3757”を設定すればよい。 登録した規制番号は、 地域別発信規制 に関係なく規制の対象となる。 但し、着信方式が 自動転送電話 の場合、転送先に指定された電話番号は発信規制の対象から外れる。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 、、 設定値入力

3-2-7 着信モードデータ

着信モード切替時刻

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.711 着信モード切替時刻(1~5)	リカ ショク 1 00:00	備考欄参照	週間自動着信モード切替の切替時間を24時間制で最高5件まで設定する。 設定値はモード切替時刻1~5で昇順に設定すること。また、ここでの設定値は週間着信モード<No.721>の各曜日に共通であり、切替時刻ごとにモード別着信方式<No.731>で外線端子別に設定した着信方式を一括変更する。

[キー操作] < 前段の表示に戻す ▲ ▼ 上下の番号を表示する
 0 ~ 9 設定値入力

週間着信モード

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.721 週間着信モード(SUN~SAT)	シユカン モード SUN 11111	1:モード1 2:モード2 3:モード3 4:モード4 5:モード5	週間自動着信モード切替の着信モードを各曜日ごと、及び着信モード切替時刻で設定した切替時刻順に設定する。 左から順にモード切替時刻1~5に対応する。 着信モードは、モード別着信方式<No.731>で外線端子別に設定した着信方式に従う。 1桁目に着信モード切替時刻1以降のモード番号を、2桁目に着信モード切替時刻2以降のモード番号を設定する。

[キー操作] < 前段の表示に戻す ▲ ▼ 上下の番号を表示する
 0 ~ 9 設定値入力

時間帯別着信モード

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.731 モード別着信方式(モード1~5)	モード 1 0000	0:通常着信 1:集中着信 2:自動転送電話 3:DIL 4:DID 5:スライド着信 6:夜間着信	モード1~モード5の時間帯、及び外線端子別に着信方式を設定する。 但し、着信モード切替時刻の設定数以上のモード別着信方式の設定は無効となる。 左から順に外線端子01~04に対応する。 本設定は、夜間/休日着信モード切替の選択値としても利用する。

[キー操作] < 前段の表示に戻す ▲ ▼ 上下の番号を表示する
 0 ~ 9 設定値入力

3-2-8 NCCデータ

NCC番号

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.811 NCC特番 (1~3)	NCCハンコウ 1 0000	備考欄参照	長距離系NCC(新電電)3社の特別番号を任意に設定する。 0088:日本テレコム(JT) 0077:第二電電(DDI) 0070:日本高速通信(TWJ) etc

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 設定値入力

NCC契約

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.821 NCC契約 (1~3)	NCC ケイク 1 0000	0:契約なし 1 :	NCC特番<No.811>別、及び外線端子番号別に契約の有無を設定する。 左から順に外線端子01~04に対応する。また、NCC契約番号は、NCC特番1~3に対応する。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 設定値入力

NCC指定地域

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.831 NCC対地番号 (1~50)	NCC タイチハンコウ 1 _ : _	備考欄参照	NCC特番を付加する市外局番を設定する。 [:] 左に0を除く5桁以内の市外局番、右に付加するNCC特番1~3を50件まで設定する。 設定位置のカーソル移動は、 <input type="button" value="Ⓜ"/> ボタンの押下に従う。

〔キー操作〕 前段の表示に戻す 上下の番号を表示する
 ~ 設定値入力 入力位置移動

3-2-9 その他（特殊データ）

特殊データ一覧

設定内容	LCD表示(工場出荷値)	設定範囲	備考
No.901 リモート出力 レベル	リモート シュツリョク レベル 0dB	0dB 3dB 6dB (※ ボタンで変更)	リモートメンテナンスによるサポートセンター間のトーン(PB)出力レベルを設定する。
No.902 課金センター の電話番号	料金センター ノバンゴウ 0334566635	備考欄参照	必要に応じて課金センターの電話番号を変更する。 課金データ転送で使用する外線の種別が“PBX/CES”の場合は、電話番号の先頭にPBX/CES外線捕捉特番“0”を付加すること。
No.903 設置場所の電 話番号	テナワ バンゴウ -	備考欄参照	電話番号<No.227>にPBX/CESの内線番号を登録した場合は、代表の電話番号を市外局番から設定する。 本設定は、課金データ転送で使用する。

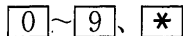
〔キー操作〕



前段の表示に戻す



上下の項目を表示する

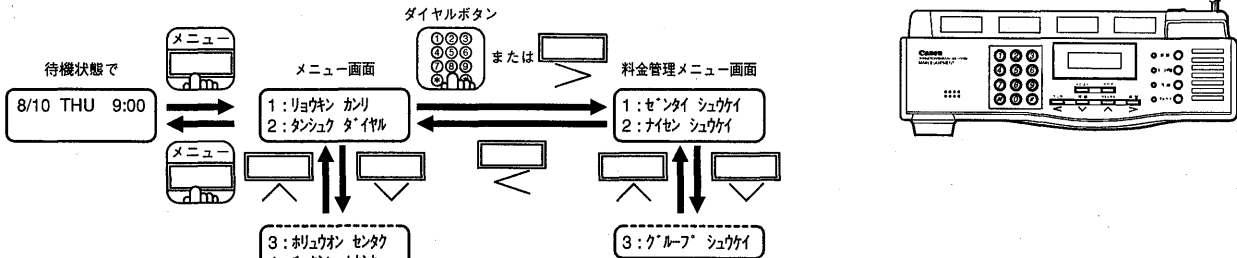


設定値入力

4. 付 録

メニューデータ設定

システムの通話料金管理、短縮ダイヤルの登録、保留音選択、日時合わせ等は、マスター電話機（主装置）側でメニューデータとして管理します。



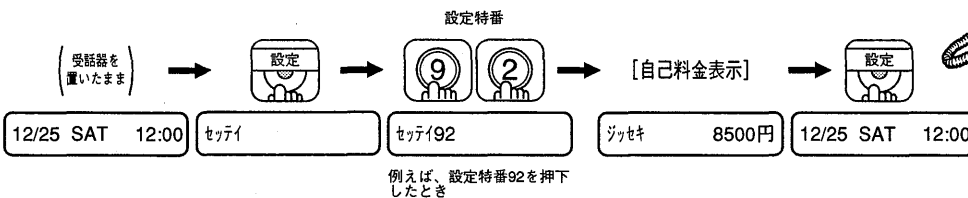
ダイヤル	設定内容
	料金管理
	短縮ダイヤル登録
	保留音選択
	着信方式切替
	日時合わせ
	内線名称登録
	夜間発信
	表示濃度調整

NOTE

- 操作方法の詳細は、別紙の「使用説明書」あるいは「サービスマニュアル」を参照してください。

個別データ設定（設定特番号）

電話機ごとのクイック発信、キータッチ音の可否、及び音量調節、オフフック発信等の設定は、電話機側で個別データとして管理します。



例えば、設定特番92を押下したとき

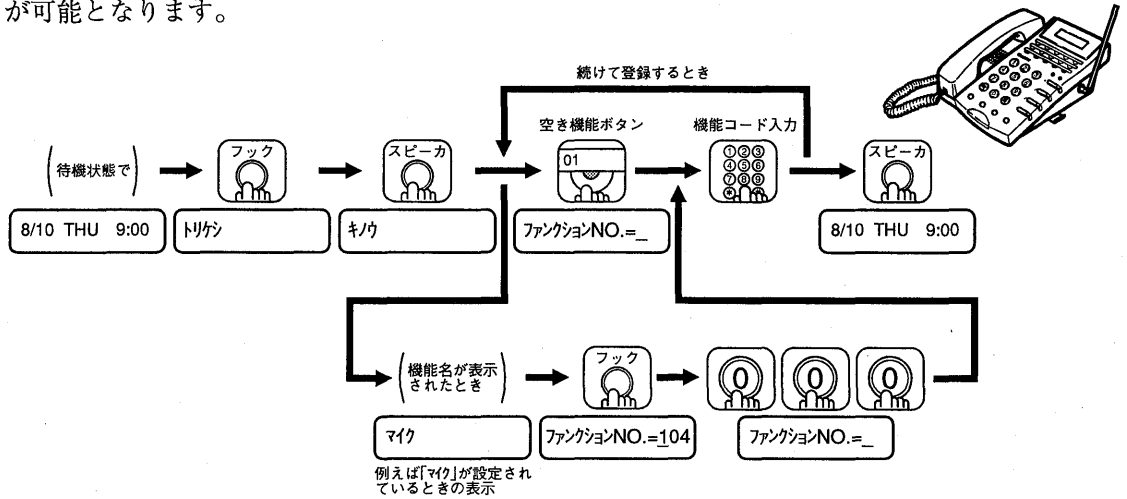
設定特番	設定内容	専用	移動
	表示濃度調節	○	—
	自己情報表示	○	—
	自己料金表示	○	—
	着信音量調節	○	○
	クイック発信	○	—
	キータッチ音	○	○
	ハンドセット/ヘッドセット切替	○	—
	オフフック発信	○	○
	受話音量調節	○	○
	スピーカ音量調節	○	—
	ホットライン先内線の指定	○	○
	オフフック有効/無効	○	○

NOTE

- 操作方法の詳細は、別紙の「サービスマニュアル」を参照してください。

フレキシブルキーアサイン

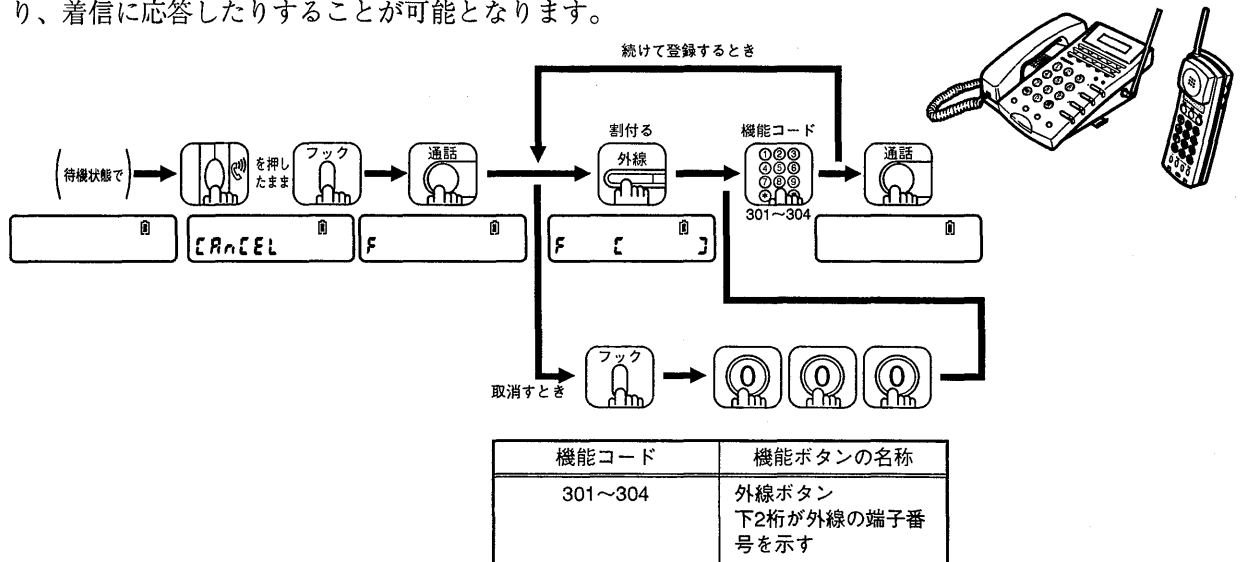
専用電話機ごとの任意のボタンに機能を登録することにより、ワンタッチで機能を開始したり終了したりすることが可能となります。



機能コード	機能ボタンの名称	機能コード	機能ボタンの名称
100	設定	108	ドアホン
101	代理応答	109	会議通話
102	内線	110	一斉
103	ファクス	111	キャンプオン
104	マイク	112	放送
105	アラーム	113	メモダイヤル
106	不在	114	フラッシュ
107	自己保留		

外線ボタン割付

電話機ごとに外線端子に対応した外線ボタンを登録することにより、ワンタッチで特定の外線を捕捉したり、着信に応答したりすることが可能となります。

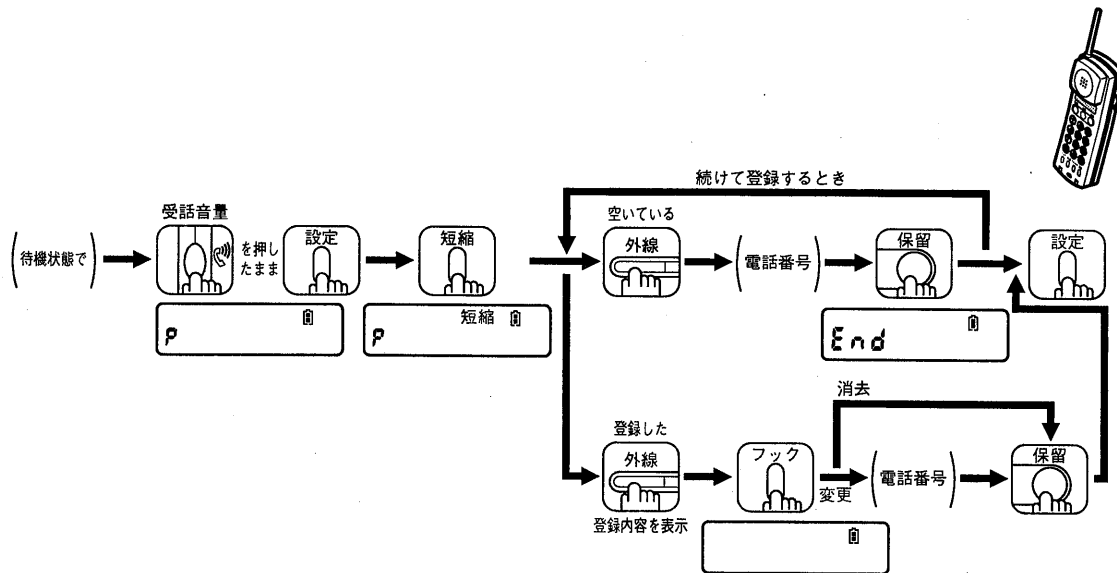
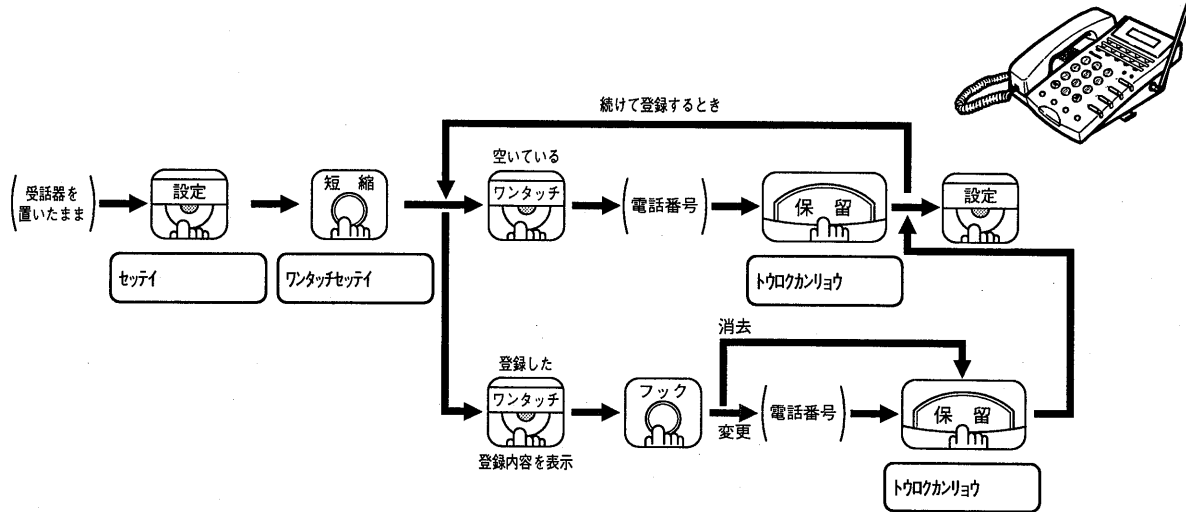


NOTE

- 専用電話機の外線ボタン割付操作は、フレキシブルキーアサインと同様です。機能ボタンの代わりに外線ボタンを押下して下さい。

ワンタッチダイヤル登録

頻繁にかける電話番号を電話機ごとのワンタッチボタンに登録しておけば、そのボタンを押下するだけでダイヤルできます。



NOTE

- 専用電話機のワンタッチボタンには、ワンタッチダイヤルと同様の操作で頻繁に使用する一連の操作（機能ボタンの押下を含む）を登録することもできます。

Canon